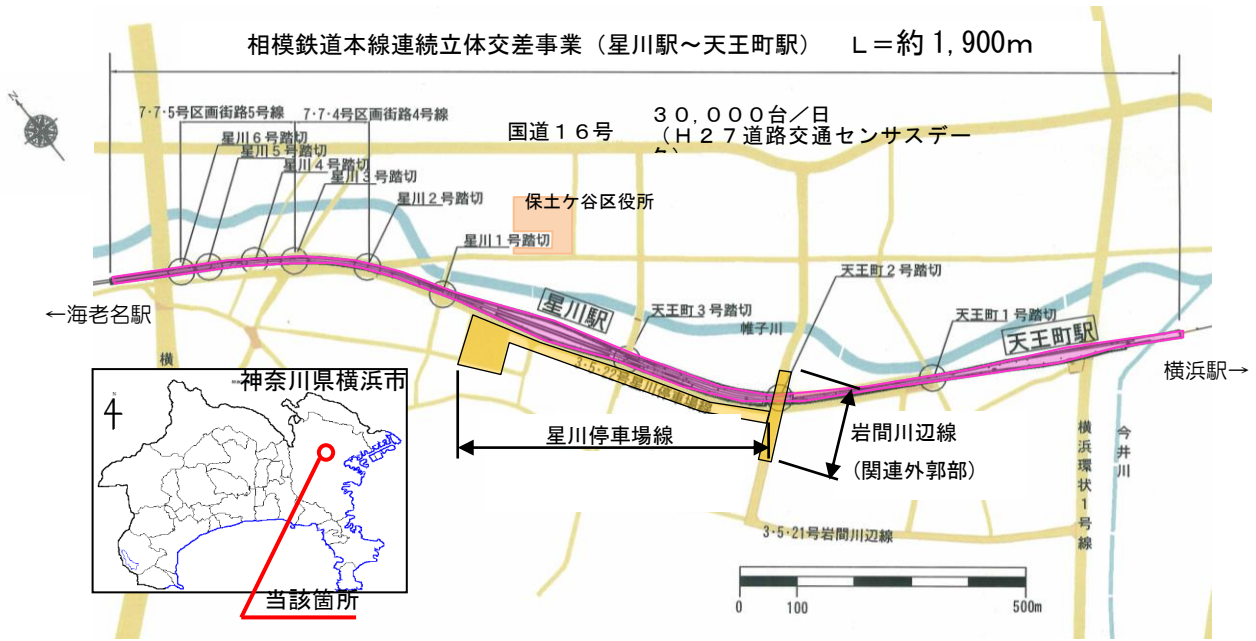


## 再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課  
担当課長名：本田 武志

事業名	相模鉄道本線（星川駅～天王町駅間）	事業区分	連続立体交差	事業主体	横浜市
起終点	自：横浜市保土ヶ谷区岩間町一丁目 至：横浜市保土ヶ谷区星川三丁目			延長	1.9km
事業概要					
保土ヶ谷区の地域拠点である「星川・天王町駅周辺地区」の1.9km区間において、鉄道を高架化することにより、9箇所の踏切を除却する。これにより、慢性的な交通渋滞の解消や地域の一体化による生活環境の向上及び踏切事故の解消を図る。					
平成14年度事業化		平成14年度都市計画決定		平成14年度用地着手	
平成14年度工事着手					
全体事業費	503億円	事業進捗率	83%	供用済延長	1.9km
計画交通量	179,277台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 1.02	(残事業)/ (事業全体) 85/687億円 事業費：84/686億円 維持管理費：0.62/0.62億円	(残事業)/ (事業全体) 698/698億円 走行時間短縮便益 591/591億円 走行経費減少便益：21/21億円 交通事故減少便益：86/86億円	平成30年	
	(残事業) 8.2				
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=0.8~1.3(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=6.0~10.7(交通量±10%) 事業費：B/C=0.9~1.1(事業費±10%) 事業費：B/C=7.4~9.1(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.01~1.02(事業期間±2年) 事業期間：B/C=8.0~8.3(事業期間±2年)					
事業の効果等					
①交通渋滞の解消 開かずの踏切（ピーク時遮断時間49~58分）により発生していた交通渋滞が踏切除却により解消される。					
②緊急活動の円滑化 踏切遮断により支障した消防及び救急活動が踏切除却により迅速化が図れる。					
③高架下空間の創出 高架下の新たな空間が有効活用されることによる利便性の向上が図れる。					
関係する地方公共団体等の意見					
横浜市中期4か年計画（2018~2021）政策36「交通ネットワークの充実による都市インフラの強化」として「連続立体交差事業の推進」が位置付けてられている。					
事業評価監視委員会の意見					
-					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
-					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
・平成30年11月に全線高架化し高架区間内の踏切が除却されている。31年度からは、星川駅、天王町駅の建築・電気工事、星川駅留置線築造工事を行っていく。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
-					
施設の構造や工法の変更等					
-					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	・事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。